

第2学年3組 道徳学習指導案

- 1 主題名 ものを大切に 低 1 - (1) 節度・節制
資料名 「ノートのひこうき」(学研)

2 主題設定の理由

本主題は、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」ことを主な内容としている。本時は、この内容の「物を大切にしようとする態度を育てること」をねらいとしている。この「物を大切にしようとする態度」は、児童の節度・節制や基本的な生活習慣・規則正しい生活構築の基盤と捉えることができる。日常的に使っている「勿体ない」という言葉は、「物」の持つよさや特質が生かされていないことであることを理解させ、「勿」を大切にしていこうとする心を育てていくことは環境教育との関連からも重要である。この内容は低学年(1)の主として自分自身に関する内容であるが、集団や社会との関連である4の(2)「みんなが使う物を大切にする。」にも関連し、さらに上学年の環境保全にもつながっていく。現代社会は、余りある物の豊かさの陰で物を粗末にするなど物の価値を考えない時代と言われている。このような現状の中で、物の特質を見極め大切に効果的に活用しようとする態度を育てるといふ本主題は大変意義深いと考えられる。

本学級の児童は、事前の意識調査から自分の身の回りの物で役に立っている物への意識はなされており、それらを大切に活用していかななくてはいけないということも理解できている。しかし、児童の実態は、みんなが使う学級や学校の物などは大切に使うことができているが、自分の持ち物になると大切に扱うことができなかつたり、まだ使える消しゴムや鉛筆などを最後まで使わないで捨ててしまつたりすることもある。

現在、学級では環境教育の一環として「リサイクル活動」を行っており、児童もゴミの分別などを通して「物」を大切に活用しようとする意識は高まってきている。

このような時期に、児童自らが生活の中で「物」が自分にとってどんなに役立っているかを考えることができ、「物」の価値を見つめ、「物」を大切にしようとする心情を培うことは意義深いと考える。

本資料は、「ゆきお」から買われた「ノート」が、最初は丁寧に使われたが、すぐに破られて、紙ひこうきにしてとばされてしまい、「ノートのかみ」が今にも泣き出しそうになるという内容であり、「物」を大切にしようとする態度を育てる資料である。

本時指導にあたっては、導入段階で価値への方向付けを容易にするために、身近にあるみんなが使う物と個人が使う物の両方を幅広く児童に提示し、「自分のまわりにある物について考えよう。」というめあてを意識化させる。展開前段では、資料への興味・関心を高めるために実際に教師が紙ひこうきを飛ばしてから資料の範読を行う。資料の扱いについては、使われる物としての立場にある「ノートのかみ」の気持ちと、物を使う立場にある「ゆきお」の気持ちに共感的な理解を図らせながらねらいとする価値の追求と把握ができるようにする。その中で、自分たちにも「ゆきお」と同じように物を大切にしない気持ちがあることを理解させ、さらに、大切に使われない「ノートのかみ」の悲しい気持ちを考えさせることで、児童が「物」を大切にしようとする価値の把握を図るようにする。展開後段では、価値の一般化(広く物を大切にしようとする気持ち)を図るために、ねらいに対しての自分はどうかであったかを振り返り、知的理解ではなく価値を内面的に自覚できるようにする。終末では、教師の小学校時代に物を大切にできなかった時の説話を通して、物を大切にしようとする価値意識を児童が継続し、これからの生活に生かすことができるようにする。

3 本時のねらい

それぞれの物の価値を考えることを通して、物を大切にしようとする態度を育てる。

4 本時

平成20年6月25日(水) 第5校時

5 準備

読み物資料「ノートのひこうき」 道徳ノート 物の写真 挿絵 かみひこうき

6 展 開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<p>1 教室の中や、身の回りにあるいつも使っている物を発表する。 学習の時に使う物 遊ぶ時などに使う物</p>	<p>本時のねらいとする、物に対する価値への方向付けをする。 物への意識が深まるように、学習用具などの写真を児童に提示する。</p>
展 開 前 段	<p>2 資料「ノートのひこうき」を読んで、「ノートのかみ」と「ゆきお」くんの気持ちを話し合う。</p> <p>(1)「ゆきおくん」から、字をていねいに書いてもらっているときの「ノートのかみ」さんはどんな気持ちでしょう。 大切に使ってくれてうれしい。 よい子に買ってもらってよかった。 ずっと大切にしてくれるかなあ。 「ゆきお」くんっていい子だな。 「ノートのかみさん」のうれしそうな表情をつくり、気持ちを発表する。</p> <p>(2) ノートをやぶって、ひこうきにしようとする時の「ゆきお」くんはどんな気持ちでしょう。 友だちもとばしているからぼくも…。 ぼくが買ったノートだから自由だ。 とおくにとんでほしいなあ。 「ゆきお」の気持ちを吹き出しに書く。</p> <p>(3) かなしくて泣いている「ノートのかみさん」はどんな気持ちでしょう。 やぶかれたところがいたいなあ。 どうして大切にしてくれないのかな。 勉強に使うのにひこうきにするなんて。 「ノートのかみさん」の悲しそうな表情をつくり、気持ちを吹き出しに書く。</p>	<p>児童の資料への興味・関心が高まるように、紙ひこうきを教師が飛ばしてから範読する。 資料を児童が容易に理解できるように短時間で教師が粗筋を説明する。 「ノート」の気持へ共感的理解をさせるために、顔を児童につくらせ、発表させる。また、「ノート」の気持ちをより理解できるように表情のよい子を抽出し児童に見せる。 教師自身も「ノート」の嬉しそうな表情の模範を示す。</p> <p>児童の「ゆきお」への共感的理解を深めるために、道徳ノートの吹出しに気持ちを書かせるようにする。 「ゆきお」のような気持ちは誰にでもあることを教師が話し、負の面の価値観を児童が出せるようにようにする。</p> <p>「ノート」の悲しい気持ちに共感させるために、「ひりひりいたむ」、「どしゃっと」、「たたきつけられ」、「ふまれて」という言葉を教師が児童に意識させる。 「ノート」として使われないことが「勿体ない」という言葉だと言うことを教師が補足説明をする。</p>
展 開 後 段	<p>3 自分の身の回りの物を大切にできたことや大切にできなかったことなどを思い出し道徳ノートに書き発表する。 ノートを最後まで使った。 本に落書きをしてしまった。 傘を振り回し、こわしてしまった。</p>	<p>ねらいとする物に対する価値を内面的に自覚することができるように、物に対するこれまでの具体的な行為やその時の気持を想起させる。 児童が想起しやすいように、導入で提示した物の写真を再度掲示する。</p>
終 末	<p>4 教師の話を聞く。</p>	<p>物を大切にできなかった経験を語ることで、児童の物に対する不十分な価値観が見つめられ、これからの生活における物への価値意識の継続を図る。</p>

7 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">身近な物の写真</div>	めあて みのまわりのものについてかんがえよう	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">ノートのこと</div>	ノートのかみさんの気持ち 大せつにつかってくれてうれしい さいごまでつかってくれるかなあ ゆきおくんの気持ち 友だちもとばしているからぼくも ぼくのノートだからじゆうだ	ノートのかみさんの気持ち やぶかれたところがとてもいたい どうして大せつにしてくれないのかな	ものを大せつにできたことやできなかつたこと 本やがくしゅどうぐをたいせつにしている わざとノートにらくがきをしてしまった つかったものをかたづけなかった
		挿絵 3	挿絵 2	挿絵 1	

8 道徳ノート

どうとくノート 二年組	めあて みのまわりのものについてかんがえよう	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">ノートのこと</div>	ゆきおくんの気持ち ノートのかみさんの気持ち	ものを大せつにできたことやできなかつたこと
挿絵 2	挿絵 3			